

## 日本文理大学医療専門学校臨床検査学科

宮本 綾\*

## はじめに

本年3月臨床検査学科第13期生の卒業を終えたばかりのまだまだ未熟な本学科ですが、今回このような機会をいただきましたこと、大変感謝致します。

まだまだ試行錯誤の状態が続いておりますが、これまでの歩みをつづらせていただきます。

## I. 本校の沿革

日本文理大学医療専門学校は、平成16年4月診療放射線技師の厚労省指定養成校として開校し、翌年、臨床検査学科・臨床工学科を加え、3学科を併設した九州初の医療専門学校として設置され、今年で15年を迎えます。

平成16年3月 医療専門課程 診療放射線学科  
(定員80名)設置認可

平成16年4月 開校

平成17年4月 医療専門課程 臨床検査学科  
(定員40名)・臨床工学科(定員40名)設置

平成31年4月 創立15年を迎え、現在に至る。  
(写真1)

## II. 教育目標

「幅広い教養、奉仕の心、生命の尊厳の認識を持った人間的資質を磨き、社会が医療人に求めているものを的確に把握し対応できる能力を習得させる。

また、医療従事者として、明確な目標を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続的に実施できるような自分を律する人間を育成する。」

上記の目標を掲げ、人間力豊かな医療人の育成に取り組んでおります。



写真1 日本文理大学・日本文理大学医療専門学校全景

\* 日本文理大学医療専門学校臨床検査学科 miyamotoay@nbu.ac.jp



写真 2 新入生歓迎会



写真 3 上級生と新入生との勉強会

### III. 教育内容

本校は、医療技術職3種育成の各学科の強みをいかし、相互協力しながら、より幅広く・より専門性の高い教育を目指しております。

また、本校は九州各県・中国・四国などから遠く親元を離れ入学する学生が約4割を占めるため、学習面のみならず生活面のサポートにも注力しています。

### IV. 臨床検査学科の取り組み

#### 1. クラス担任制の導入

本学科は開校当初より、各学年定員40名に対し、担任・副担任の2名を配置し、各学年での取り組みや習得内容の充実などを図っています。

1年生：まず、一人暮らしや友人作り、先輩との関係などの構築を行い、安心して学習に取り組める「環境づくり」を重点的に行う。同郷の先輩やクラスメイトがいる事を知る事で、本学科でのこれからの3年間への不安を少しでも解消し、学習に取り組めるようサポートする(写真2、3)。

2年生：専門的な教育内容に加え、学内実習も増えるため、日々のレポート作成などに疲弊し、臨床検査技師になる夢が薄らぐ時期となるため、精神的なサポートを行う。

3年生：臨地実習、就職活動、国家試験対策など最も忙しく個人への対応が異なるため、担任・副担任を中心とし、学科教員全員でのサポート体制を整えている。

#### 2. 学習の質の向上

3年制の学校では詰め込みばかりで、国家試験の合格だけを目標としていると言われるがちですが、本学科では「なぜ?」「どうしてそうなるのか?」を重要視した講義内容を構築し、アクティブラーニングを推奨し、実践しています。聞き取り、暗記するのではなく、ひとつひとつの知識を考え・理解し、友人と話し合いながら知識を深めていくことで、より理解度を高めることができます。科目別に講義が進行されることにより、ヒトの体内現象としての連動性を見落としがちになりますが、「考えること」で連動して生じる連鎖反応に気づくことができるようになります。このことは、国家試験への対策ばかりでなく、将来「己で考え・行動することのできる技師」になることの基盤にもなると考えています(写真4)。

また、本校が3業種の学科があることの強みを生かし、医療工学分野では、臨床工学科の専任教



写真 4 2年生の授業風景

員に依頼し、臨床検査技師教育に対応する内容にアレンジを加えた講義・実習を行い、ME技術者認定の受験にチャレンジしています。全国合格率30%台の難関ですが、卒業生の約80%が資格を取得しています。このことは、苦手とされる医用工学の分野を強みに変え、生体計測分野の専門性を高めることの大きな成果となっています。

### 3. 実践的な教育

本学科カリキュラムの編成にあたり、臨床現場での経験をいかした内容を多く取り入れています。

1つ例を上げさせていただきますと、1年生では「臨床検査技師の常識」の習得を目指し、基礎化学実習(後期1単位)を行っています。

「1マイクロの世界を知ること！」臨床検査技師教育の教科書に記載が多くある「1 $\mu$ L」ですが、多くの学生は知識として1マイクロは知っていますが、感覚として1マイクロが想像できません。このことから、精度管理の重要性や検体保存によるデータ変化、感染防御などの重要性が納得しづらく、ただ覚えるだけになってしまいがちです。このような指導経験から、2年生の本格的な学内実習が始まる前の1年生後期に「1 $\mu$ L」を体感することから学内実習をスタートさせています。「1 $\mu$ L」の体験は、自分の感覚との差が大きく、大変な驚きのようで、「臨床検査技師ってすごい」「臨床検査技師はカッコイイ」など幼い感想ですが、自分が目指す臨床検査技師という職業を初めて体感し、将来の目標について再確認する大変よい機会となっています。

この実習を終えると、実習台の汚れやガラス器具の汚れなど今まで気にさえしなかったところに気づき始め、グループやチームでの作業の体験から、クラスメイトやグループ内での声掛けなどが自然と始まり、その後の実習での細かな配慮が少しずつですが、出来てくるように感じています。臨床現場での「当たり前」は、指導しなければ「当たり前」にはならないと強く感じています(写真5)。

## V. キャリア教育

### 1. 地域貢献を目指したキャリア教育

本学科は多くの地域から学生が入学し、卒業後



写真5 基礎化学実習の様子

は多くの学生が出身地域での就職を希望します。このことより3年生での臨地実習は、「出身地実習」を実施しています。同じ地域出身の先輩の姿を見る事で、将来その地域で頑張る自分の姿を描くことが、その後のモチベーションの維持につながってくれたらと考えています。

また、同じキャンパス内にある日本文理大学での学園祭において、地域の小学生への職業紹介や地域住民への健康啓発運動なども実施し、将来病院などで参加するであろう地域貢献活動への意識を高めております。

### 2. 臨床検査技師会との連携

本学科では、各地で行われる学会に学生を引率し、臨床検査技師となった後もキャリアアップを目指す技師の先輩方の姿を見る事も重要と考えています。講義や実習の中で「臨床現場ではこのような事を考えて行動する。」と常々話をさせてもらっているため、臨床現場の検査技師の皆さんの活躍を間近に見る事の出来る機会を大切にしています。

また、本学科の教育課程編成委員は、大分県臨床検査技師会の方々をお願いしており、臨床現場と教育現場のすれ違いを少しでも埋める工夫をしています。臨地実習の際、実習施設が要求する学習レベルや技能レベルと本校学内における講義内容や実習内容をすり合わせることで、より積極的な臨地実習を行うことができると考えています。

### 3. 「進路探求セミナー」の実施

学校全体の取り組みとして、「進路探求セミナー」を実施しております。

1年生では「医療人とは?」「接遇について」などこれから進んでいく医療の世界を知ってもらうことを重視した内容で実施します。

2年生では、臨地実習を前に「先輩(卒業生)からのアドバイス」や「臨地実習指導者からのアドバイス」など臨地実習に向け取り組む姿勢を考え、実践すること、3年生では目前に迫った就職活動について自己分析・履歴書の書き方・模擬面接など多くのカリキュラムでサポートしています(写真6)。

### おわりに

本校は、九州の大分県大分市の端に位置しており、自然豊かな環境のもと、笑顔の絶えない学科を目指し、日々試行錯誤しております。数多くの

医療技術職、数多くの養成校の中から、臨床検査技師を目指し、本学科の扉をたたいてくれた学生のひとりひとりが、夢を見失うことなく、笑顔で3年間を過ごすことができるように最大限のサポートをこれからも行っていきたいと考えております。

自分の生まれ育った地域で医療の担い手として活躍してくれること、医療の現場で苦しみながらも臨床検査技師としてのやりがいを見出し、日々成長する姿を、私ども教員の喜びに変え、今後も臨床検査技師教育に学科教員一丸となって邁進してまいりたいと思います。今後、悩み迷うこともあるかと思いますが、諸先生方のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。



写真6 進路探求セミナー